

開館15周年記念特別展

東京をつくった 佐賀人たち

2019.10.11(金) ⇒ 12.8(日)

9:30~18:00 OPEN

佐賀県立佐賀城本丸歴史館

外御書院・御小書院（特別展示室）

観覧料無料



第一大区従京橋新橋芝罘瓦石造商家番昌貴賤敷次盛泉(個人蔵)



東京をつくった佐賀人たち

日本の首都にして世界有数の大都市、東京。明治初年の誕生から近代都市として成長していった陰には、佐賀人たちの知恵と努力がありました。

明治元年(1868)の東京奠都(事実上の遷都)に最も大きな影響を与えたのは、佐賀藩出身の大木喬任・江藤新平が提出した建白書とされています。「江戸を『東京』と改め、ゆくゆくは東京-京都間を鉄道で結ぶべし」という大木・江藤案は、その後の新政府の方向性を決定づけました。

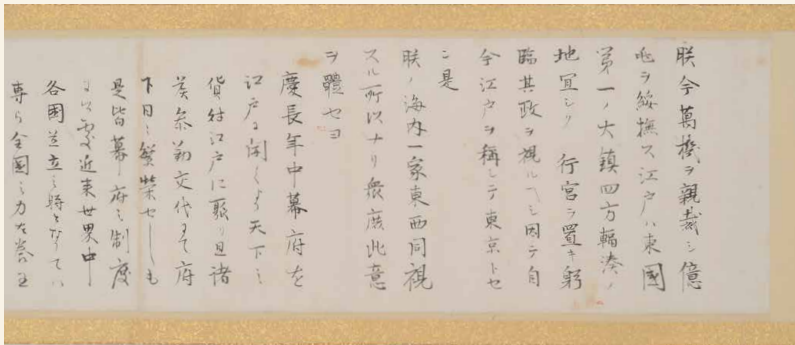
大木は明治天皇の東京行幸を実現させた功績が認められ、第二代東京府知事に任命されました。大木府政は、体制転換に伴い混乱していた東京を、貧困対策や武家地再編(桑茶政策)などの諸政策により安定させていきます。

一方、大隈重信を中心とする開明派官僚グループ「築地梁山泊」からは、鉄道や煉瓦造りの街並みなど近代的な都市計画が次々に生まれました。

そして、少し時代が下って明治後期から大正期にかけては、建築家の辰野金吾と曾禰達蔵の設計で、東京駅や丸の内オフィスビルなど東京の「顔」ともいえる建物が数多く建設されました。

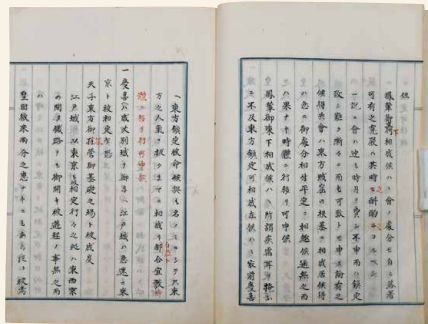
本展覧会では、こうした東京のなりたちへの佐賀人の貢献を、様々な関連資料から紹介します。

九州初上陸! 大木喬任も起草に関わった「東京」誕生宣言の詔 **重要文化財**



東京奠都の詔書案 (海の見える杜美術館蔵)

「東京」と京都を鉄道で結ぶべし —新政府を動かした大木喬任・江藤新平の建白書



大木喬任遷都建白書 慶應4年/大正6年写 (宮内公文書館蔵)

鉄道と煉瓦の街へ —大隈重信率いる“築地梁山泊”の構想



東京高輪海岸蒸気車鉄道図 (本館蔵)

東京の「顔」になった 辰野金吾と曾禰達蔵の建築物



東京駅 (『明治大正建築写真聚覧』より)



三菱二重館 (『明治大正建築写真聚覧』より)



辰野 金吾



曾禰 達蔵

event 1. 記念講演会

東京を作った4人の佐賀人 —大木喬任、大隈重信、辰野金吾、曾禰達蔵

10.12(土) 13:30-15:00 外御書院にて

聴講無料

事前申込不要

〈講師〉藤森照信先生

東京都江戸東京博物館長、
東京大学名誉教授、建築家

建築家、建築史家。東京大学生産技術研究所教授、工学院大学教授を経て、現在は、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授、東京都江戸東京博物館館長。工学博士。専門は建築史。1974年、街を歩き回り古い建物、変わった建物を発見し調査する東京建築探偵団を結成。自身も建築家として神長官守矢史料館はじめ数々の作品を手がける。『明治の東京計画』(毎日出版文化賞)、『建築探偵の冒険 東京篇』(サントリ-学芸賞)など著書多数。



event 2. 第182回歴史館ゼミナール

『東京』の誕生と佐賀人

11.9(土) 13:30-15:00 外御書院にて

聴講無料

事前申込不要

講師: 芳野貴典 (本館学芸員)

event 3. ギャラリートーク

本館学芸員による展示解説 会期中 毎週土曜日

いずれも 14:00-14:30 御小書院にて

※10月12日及び11月9日は15:00~15:30

大木喬任(個人蔵)、江藤新平(本館蔵)、大隈重信(霊山歴史館蔵)、辰野金吾・曾禰達蔵(多久市郷土資料館蔵)